

看護学生の社会人基礎力の実態と育成方法の検討

The actual situation of Fundamental Competencies for Working Persons of nursing students and examination of training method

佐 藤 由記子

SATO Yukiko

キーワード：社会人基礎力、看護基礎教育、文献レビュー

Key words : Fundamental Competencies for Working Persons, basic nursing education, Literature review

要 旨

本研究の目的は、看護学生の社会人基礎力の実態を把握し、その育成方法を検討することである。論文データベースで文献検索を行い、看護学生の社会人基礎力の育成に焦点をあてた文献のレビューを行った。結果、33件の文献が厳選され【看護学生の社会人基礎力の影響要因】【看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法】【教育介入による変化】【その他】に分類された。その内容から、社会人基礎力の客観的な評価指標の導入、初年次教育に続く2年次教育、考え抜く力の強化が必要と考えられた。社会人基礎力は臨地実習やその他の授業、課外活動など様々な機会でも伸ばすことができる。教育の場面ごとに学生に社会人基礎力を意識させ、定期的・かつ継続的な評価を行う必要があると考えた。特に臨地実習は社会人基礎力を伸ばさせる重要な機会となり得る。学生や病院側と共通認識し、意識づけを図る必要性が示唆された。

I. 緒言

社会人基礎力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱したものである[1]。近年では人生100年時代の到来や第

四次産業革命の背景から、その重要性は増しているとして、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義している[2]。看護の現場においても、保健医療を取り巻く環境の変化から、医療技術の進歩への対応、医療安全の確保、インフォームド・コンセン

トへの国民の期待等、業務に様々な変化が生じているといわれており [3]、看護実践能力の向上が求められている。看護実践能力を向上させる有効な手段として臨地実習が挙げられるが、患者の安全が重要視される中で、学生は臨地実習の範囲や機会が限定される方向にあることが以前から課題となっていた [4]。このような背景から、卒業時の実践能力と臨床の求める実践能力の乖離が問題視されており [5]、看護実践力を高めるには、専門的能力とともに社会人基礎力を身につけ、育てていくことが必要と言われている [6]。そこで今回、看護学生の社会人基礎力の実態を把握し、育成方法を検討することを目的とした文献レビューを行った。看護基礎教育における社会人基礎力育成に焦点をあてた文献レビューは未だなく、本研究によりその育成方法を検討する資料となることが期待される。

II. 研究方法

看護文献が豊富に収録されている医学中央雑誌刊行会 Web 版（以下、医中誌）および国立情報科学研究所の CiNii Articles で文献検索を行った。対象論文は 2011 年 3 月から 2020 年 3 月までに発行された国内論文に限定し、看護学生の社会人基礎力の育成に焦点をあてたものを条件とした。看護学生を含む医療福祉系の学部などを対象とした研究もみられることから、キーワードは「看護学生」に限定せず、「社会人基礎力」「看護」、AND 検索「原著論文」「会議録除く」とし、117 件が検索された。CiNii Articles では「社会人基礎力」「看護」で検索し 96 件が検索された。今回は国内の看護基礎教育における社会人基礎力育成を主なテーマとしている文献を抽出することとし、現任教育に関するもの 26 件、解説・特集 44 件は除外した。その結果、33 件の文献が選定基準を満たすものとして厳選された。抽出された文献について、①件数の年次推移、②調査対象、③対象者数、④調査方法、⑤社会人基礎力の評価方法、⑥結果について調査を行い、類似するテーマごとに整理・分類することで研究の傾向と今後の課題を明らか

にする。

III. 倫理的配慮

本研究は人を対象とする研究ではなく、公表された文献を分析・考察するため倫理的配慮の対象に該当しなかった。

IV. 結果

抽出された文献は、2011～2013 年各 1 件、2014 年 2 件、2015 年 5 件、2016・2017 年各 4 件、2018・2019 年各 6 件、2020 年 3 件であった。対象者、対象者数、調査方法の内訳を表 1 に示す。対象者は 4 年制看護系大学のほか、3 年制看護専門学校、短期大学等の看護学生の他、文献検討や卒業生、看護教員を対象としたものがあつた。対象者数は 100 名未満のものが最も多く (17 件)、100～300 名未満 (8 件)、300～500 名未満 (3 件) と続いた。調査方法としては質問紙によるものが最も多く (19 件, 57.6%)、独自で作成したシート・レポートなどの分析調査 (6 件, 18.2%)、質問紙に加えてレポートや面接内容を分析した調査 (6 件, 18.2%) が続いた。社会人基礎力の評価方法は、文献検討やインタビュー調査を除き、すべて学生の自己評価結果を用いていた。8 件 (No.2～8,26) は北島らにより作成された 6 段階のリッカートスケールによる調査で、その他は 3～5 段階の自己評価の調査であった。

抽出した文献を類似する内容ごとに整理し、【看護学生の社会人基礎力の影響要因】【看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法】【教育介入による変化】【その他】に分類された。さらに類似する項目を整理し、【看護学生の社会人基礎力の影響要因】では [社会人基礎力との関連] [社会人基礎力に影響を及ぼす要因]、【看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法】では [学年比較] [単独学年] [経年変化]、【教育介入による変化】では [臨地実習] [実習を除く正課授業] [課外活動]、【その他】では [看護教員] [文献検討] が抽出された (表 2)。

【看護学生の社会人基礎力の影響要因】 [社会人

表1 対象・対象者数・調査方法の内訳

対象* (n=29)	4年制大学	(件)	(%)
	3年制専門学校	19	65.5
	2年生専門学校昼間定時制	8	27.6
	3年制短期大学	1	3.4
	5年一貫高等看護専門学校	4	13.8
	高等学校衛生看護科	1	3.4
対象者数 (n=32)		(人)	(%)
	100名未満	17	53.1
	100～300名未満	8	25.0
	300～500名未満	3	9.4
	500～1000名未満	2	6.3
	1000名以上	1	3.1
	不明	1	3.1
調査方法 (n=33)		(件)	(%)
	質問紙	19	57.6
	独自で作成されたシート・レポート等	6	18.2
	質問紙やシート等の併用	6	18.2
	面接・インタビュー	1	3.0
文献	1	3.0	

*複数の機関を調査したものはそれぞれ集計した

表2 看護学生を対象とした社会人基礎力に関する文献一覧

分類	項目	No	著者	タイトル	出典
看護学生の社会人基礎力の影響要因	社会人基礎力との関連	1	伊藤 他	A看護系大学生の社会人基礎力と日常生活経験との関連	日本ヒューマンケア科学会誌. 2020; 13 (1): 15-22.
		2	田中 他	看護学生の臨地実習自己効力感及び職業的アイデンティティと社会人基礎力の関連	日本看護学会論文集:看護教育. 2020; 50: 23-26.
		3	橋本 他	老年看護学実習における学習活動自己評価と日常生活経験および社会人基礎能力との関連	愛知医科大学看護学部紀要. 2019; 18: 25-33.
		4	石川 他	看護大学に在籍する学生の課外活動と社会人基礎力との関連性	獨協医科大学看護学部紀要. 2014; 7: 11-21.
		5	北島	看護系大学生の社会人基礎力及び自己教育力と自己調整学習方略との関係	医学と生物学. 2013; 157 (2): 222-228.
		6	北島 他	看護系大学生の社会人基礎力と看護実践力および日常生活経験の関係	日本看護学教育学会誌. 2012; 22 (1): 1-12.
	社会人基礎力に影響を及ぼす要因	7	奥田 他	看護学生の社会人基礎力の経年的変化と影響を及ぼす経験要因	米子医学雑誌. 2019; 70 (1-3): 13-24.
		8	山本 他	看護学臨地実習が社会人基礎力に影響を及ぼす要因	日本看護学会論文集:看護教育. 2019; 49: 67-70.

看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法	学年比較	9	小島 他	看護系大学生の社会人基礎力の属性別の検討	島根県立大学出雲キャンパス紀要. 2017; 12: 19-28.	
		10	前田 他	社会人学生の臨地実習に関する社会人基礎力の調査	愛知県立総合看護専門学校紀要. 2017; 11: 1-11.	
		11	安藤 他	3年課程看護学生の社会人基礎力の学年別傾向に関する一考察	中国四国地区国立病院附属看護学校紀要. 2015; 11: 55-63.	
		12	吉武 他	A看護大学卒業生の看護技術および社会人基礎力修得の現状と課題	福岡女学院看護大学紀要. 2015; 5: 65-72.	
		13	北川	本校看護学生の社会人基礎力	東京厚生年金看護専門学校紀要. 2014; 16 (1): 1-5.	
		14	北島 他	看護系大学生の社会人基礎力の構成要素と属性による相違の検討	大阪府立大学看護学部紀要. 2011; 17 (1): 13-23.	
	単独学年	15	中西	看護系大学2年次生における学生支援方法の検討 社会人基礎力育成に向けて	純真学園大学雑誌. 2016; 5: 97-102.	
	経年変化	7'	奥田 他	看護学生の社会人基礎力の経年的変化と影響を及ぼす経験要因	米子医学雑誌. 2019; 70 (1-3): 13-24.	
		16	市川 他	看護学生の社会人基礎力の学年別自己評価と変化	八戸学院大学紀要. 2018; 56: 161-166.	
		17	切明 他	看護大学生の社会人基礎力の年次変化から見たキャリア形成支援内容の検討 (第1報)	八戸学院大学紀要. 2018; 56: 133-139.	
		18	西川 他	2年課程で学ぶ看護学生の社会人基礎力向上に向けた自己評価シート活用効果	神奈川県総合リハビリテーション事業団厚木看護専門学校紀要. 2017; 7: 11-13.	
	教育介入による変化	臨地実習	19	真島	看護学実習が社会人基礎力育成に及ぼす影響	愛仁会医学研究誌. 2018; 49: 55-57.
			20	多喜 他	A看護専門学校における社会人基礎力育成の課題 基礎看護学実習 III 前後の社会人基礎力の変化より	看護実践の科学. 2018; 43 (8): 60-65.
			21	山本 他	在宅看護学領域における統合看護学実習前後の「社会人基礎力」の変化と実践場面との関連	摂南大学看護学研究. 2017; 5 (1): 27-36.
22			石村 他	看護教育における「社会人基礎力」の能力要素「チームワーク」育成に関する検討 看護統合実習の学生自己評価から	札幌保健医療大学紀要. 2017; 3: 65-78.	
23			市川	看護学生の实習前後における社会人基礎力の自己評価	八戸学院短期大学研究紀要. 2015; 39-49: 10-31.	
24			梅川 他	成人看護学実習の前後で変化した看護学生の社会人基礎力	日本看護学会論文集: 看護教育. 2015; 45: 98-101.	
実習を除く正課授業		25	土井 他	社会人基礎力の観点を取り入れた看護学生への指導の効果	津山中央病院医学雑誌. 2018; 32 (1): 101-106.	
		26	北島 他	看護過程演習における演習用電子カルテ活用時の社会人基礎力の変化と学習効果	医療福祉情報行動科学研究. 2019; 6: 49-54.	
		27	新野 他	看護学士課程1年生の社会人基礎力の変化 (第1報) 初年時教育の基礎ゼミを通して	帝京科学大学紀要. 2020; 16: 45-52.	
		28	菅原 他	看護学生の学園祭における社会人基礎力自己分析の報告	研究紀要青葉. 2019; 11 (1): 7-15.	
課外活動	29	鈴木 他	「自然体験学習」が看護学部学生の社会人基礎力に及ぼす有効性の検証	東邦看護学会誌. 2016; 13: 37-41.		
	30	曾根 他	被災地ボランティア活動が看護学生の自己イメージと社会人基礎力、自己効力感に与える影響と学生の思い	石川看護雑誌. 2015; 12: 115-125.		
その他	看護教員	31	新野 他	学生の社会人基礎力の現状と教育方法の検討 看護学科FD研修会を通して	帝京科学大学紀要. 2020; 16: 45-52.	
		32	加地 他	看護学生の社会人基礎力を高める熟練教員の教授行動 テキストマイニングによる経験知の分析	看護・保健科学研究誌. 2018; 18 (1): 11-20.	
	文献検討	33	中村 他	大学教育における社会人基礎力を育成するための取り組みとその効果に関する文献検討	姫路大学看護学部紀要. 2016; 8: 7-12.	

基礎力との関連]では、社会人基礎力と日常生活経験との関連について調べた研究では、授業の中で〔ロールプレイをする〕、〔ディスカッションをする〕学生は、〔合計点〕〔シンキング〕〔チームワーク〕が有意に高い (No.1)、〔学校の担任やアドバイザーの教員に相談する〕、授業の中で〔ロールプレイをする〕〔ディスカッションをする〕〔授業時間以外に自己学習する〕という学習活動が社会人基礎力に影響を示した (No.2)、〔身近な人の看病や介護を経験しているもの〕〔チームワークが高いもの〕では〔学んだことを活かしながら実習目標の達成を目指す行動〕に有意な関連が認められた (No.3)「課外活動を行っている学生は社会人基礎力が高い (No.4)」の報告があった。他には、「自己調整学習方略、特にモニタリング方略の使用が社会人基礎力と自己教育力の向上に効果的 (NO.5)」、職業的アイデンティティおよび臨地実習自己効力感は、ほぼ同等の直接効果を及ぼすが、臨地実習自己効力感は職業的アイデンティティを経て社会人基礎力にも間接効果も及ぼす (NO.6)」があった。〔社会人基礎力に影響を及ぼす要因〕では、〔学習活動〕はアクションの〔主体性〕〔働きかけ力〕〔経験力〕、シンキングの〔課題発見力〕〔論理的分析力〕、チームワークの〔傾聴力〕に、〔課外活動〕と〔私的活動〕はアクションの〔主体性〕〔実行力〕、チームワーク〔規律性〕〔ストレスコントロール〕などに関係していた (No.7)、〔実習中の正の体験と負の体験〕〔ストレス対処能力〕〔チームで働く力〕〔倫理力〕は看護学生に必要な社会人基礎力に影響を及ぼす要因 (No.8) の報告があった。

【看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法】〔学年比較〕では、横断的調査により学年間での比較がなされていた。1年次と4年次を対象に調査を行った研究では、両学年とも〔規律性〕〔傾聴力〕は高く、〔想像力〕〔計画力〕は低い傾向がみられたが、学年による有意差はみられなかった (No.9)、「社会人未経験者より経験者、1年次生より4年次生、女子学生より男子学生が有意に高値を示した (No.14)」の報告があった。さらに、

1～3年生ともに〔チームで働く力〕が最も高く〔考え抜く力〕が低かった。2年生は他学年よりも〔課題発見力〕〔計画力〕〔傾聴力〕が低く、実習を間近に控えた予期不安が自己評価に影響したと考察した研究 (No.11) や、「学年別の平均値では3年生が最も高く、次いで1年生、2年生であった。本校の看護学生は考え抜く力が低く、チームで働く力が高い傾向にある (No.13)」との報告があった。社会人学生を対象にした研究では、対象の社会人学生は〔傾聴力〕〔柔軟性〕〔規律性〕〔倫理性〕について〔当てはまる〕と回答した学生が多く、〔計画力〕〔発信力〕〔働きかけ力〕についてはその回答が少なかった (No.10) と報告している。また、卒業生を対象とした研究で看護技術と社会人基礎力の習得状況を調査した研究では、卒後2年目は高い順に〔倫理〕〔チームで働く力〕〔前に踏み出す力〕〔考え抜く力〕であり、卒後1年目は、〔前に踏み出す力〕〔倫理〕、〔チームで働く力〕〔考え抜く力〕の順であった (No.12) と報告していた。〔単独学年〕では、看護系大学2年次生に焦点をあて、レポートの内容分析から教育方法が検討されていた。その結果、「1・2年次の基礎学力・専門知識の基礎をもとに、より実習等で専門性が増す3年生、社会へ踏み出す直前の4年生へと継続して社会人基礎力を育成していくことが必要 (No.15)」と結論づけられている。〔経年変化〕では縦断調査により学生の社会人基礎力の変化をとられていた。ここでは社会人基礎力について「2年次にいったん低下した後、4年次にかけて高まる傾向がみられ、シンキングとチームワークにおいて4年次の得点が有意に高かった (No.7)」、「全学年において後期の自己評価が有意に高い結果であった (No.16)」、自己評価が「前期より後期の方が上昇していた (No.17)」、「入学時より高くなった (No.18)」と報告されていた。

【教育介入による変化】〔臨地実習〕では、実習前後の社会人基礎力の自己評価得点を比較しその変化を図る研究が行われていた。その結果、実習後に社会人基礎力の4つの能力あるいはその能力要素すべての自己評価が上昇したとの報告が3件

(No.21, 23, 25) あった。その他、「実習後にアクション及びシンキングの能力要素は上昇したがチームワークの能力要素が低下した (No.19)」との報告があった。一方、チームワーク育成に関する研究では、社会人基礎力の項目を用いて自己課題を意識し、看護統合実習を行った結果、「チームワーク」を構成する能力要素〔傾聴力〕〔規律性〕〔ストレスコントロール〕の各項目に置いて自己評価の平均値が向上していた (No.22) との報告もあった。さらに、上昇した能力要素について述べている研究では、実習後に12の能力要素中7つの能力要素で中央値が上昇し、「主体性」〔計画力〕〔創造性〕で有意差を認めた (No.20)、実習後にスコアが上昇した学生の多い能力は「発信力」〔傾聴力〕〔ストレスコントロール〕などであり、変化しなかった学生の多い能力は「主体性」〔課題発見力〕〔計画力〕〔創造性〕などであった (No.24) との報告があった。

【実習を除く正課授業】では基礎ゼミや看護過程演習の授業前後、「課外活動」では学園祭や自然体験学習、被災地ボランティア活動前後の社会人基礎力の自己評価得点の変化を図るものであった。いずれも授業後や課外活動後に自己評価の得点が増加したと報告されていた (No.26～30)。

それぞれの研究の限界について、対象が限定されている・対象の特性の偏りがある (No.1, 2, 3, 7, 11, 15, 22)、サンプル数が少ない (No.9, 20, 21, 23, 26) 回収率が低い (No.7, 12)、学生の主観的な自己評価の分析である (No.9, 10, 22, 27)、一時点あるいは特定の場面での調査である (No.5, 15, 24)、調査時期が影響していた可能性 (No.1, 7, 11, 13, 24) が記されていた。

V. 考察

看護学生の社会人基礎力の育成に焦点をあてた文献を厳選した結果、対象となった文献は33件と多くはなかった。しかし、2011年から2019年までのあいだに対象の文献数は増加しており、対象者の所属機関も看護系大学のみならず、様々な養成機関で行われており、その育成の必要性や関

心の高まりがうかがえる。全国区での大規模調査などは見当たらず、今後は調査範囲の拡大が求められると考える。調査は質問紙や独自で作成したシート等により行われており、社会人基礎力の分析には全て学生の自己評価が用いられていた。内藤〔7〕は、「私たちが自分自身に対して抱く評価（自己評価）は、他者から下される評価（他者評価）と一致することもあれば、食い違うこともある」と述べている。さらに、「全体的な傾向としては、自己評価と他者評価とは一致することを示す研究が相対的に多いが、自己評価と他者評価が食い違う結果を示す研究も決して少なくない」とも述べている。この点から、自己評価による分析結果はある程度の正確性があると考えられるが、検証が必要である。他者評価の視点を取り入れた調査を行う場合についても同様のことが言えるだろう。近年、専攻・専門に関わらず、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向＝ジェネリックスキルを測定・育成できるPROGテスト〔8〕が河合塾とリアセックにより共同開発されている。看護研究においてもPROGを活用した研究が報告されている〔9〕が、その報告はまだ少ない。こうした指標の導入により、より正確に学生の社会スキルの実態把握と実情に合う効果的な教育方法の検討が可能となると考えられる。

【看護学生の社会人基礎力の影響要因】では様々なテーマでの研究が行われており、看護学生の社会人基礎力との関連や影響要因については明らかになっている部分は少なく今後も研究の余地があると考えられる。他の学部などの調査結果なども参考にしながら、看護学生としての社会人基礎力の育て方の追求が必要と考えられる。

【看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法】では、4年次あるいは3年次の最高学年で高く、2年次で最も低いという結果が共通していた。欧米諸国では、2年次に成績が低迷する現象を“2年次のスランプ” (sophomore slump) と呼んでおり、数多くの報告が見受けられる〔10-12〕。また、看護分野においても同様の報告がある〔13〕。石毛〔14〕は「初年次教育では、学生が大学での学

びにスムーズに移行できるよう丁寧な指導やサポートが行われている(中略)初年次教育とは違った形で、必要とされる2年次教育はあるのではないか」と提唱しており、看護基礎教育においてもその課題は共通していると考えられる。今後も学年の傾向や特徴を捉えた教育方法の検討が必要である。その他、「考え抜く力」が低いという結果も共通していた。「考え抜く力」は「疑問を持ち、考え抜く力」と定義されており、患者・家族の健康問題を考える役割を担う看護職に非常に重要な力である[5]。荒井[15]は、2000年以降に実施された国際学力調査(PISA)の結果から「日本の子どもたちは知識の応用や活用が苦手であるという傾向が鮮明になった」として、授業を通じていかに考える力を育てるかが重要な課題であると述べている。さらに、平成23年「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」によれば、社会人経験のある学生も増えてきており、学習状況や生活体験など様々な面で学生間の差が広がっているとの報告がある[16]。看護師養成所では、学生のレディネスが多様化している社会背景からも、考え抜く力を強化する教育の必要性が考えられた。

【教育介入による変化】では、教育介入により、すべての要素あるいは特定の能力要素の上昇が共通してみられた。【看護学生の社会人基礎力の実態把握と教育方法】の項目[経年変化]においても同様であった。看護基礎教育においては看護学実習やそれ以外の授業、課外活動など様々な機会において社会人基礎力の伸長が可能であるということが示唆された。社会人基礎力は自己と他者との対話により能力を意識し成長を実感できること、自己の課題に気づき成長につなげることが重要であるといわれている[17]教育の場面でいかに意識づけし、定期的・かつ継続的な評価を行い、自己と他者との関わりのなかで気づきを得て、成長できるかが重要と考える。成長を実感して終わるのではなく、社会で活躍するためには、学生自身や教員のほかに第三者の評価も必要となるだろう。若者が教育プロセスにおいて社会人基礎力を

含めて成長していくためには、大学等の教育内容と実社会の課題とを関連付け、チームでその解決に取り組む等の体験をしていくことが効果的であり、企業・若者・大学の間で、インターンシップを通じた若者の成長について対話することが望まれている[18]。看護分野ではインターンシップはもとより臨地実習がその重要な機会となり得る。このような背景を学生や病院側と共通認識し、意識づけを図ることで更なる教育効果が期待されると考えられた。

VI. 結論

1. 社会人基礎力の客観的な評価指標の導入により、より正確な学生の社会スキルの実態把握と教育方法の検討につながると考えた。
2. 最高学年で社会人基礎力が高く、2年次で最も低いという結果が共通していた。初年次教育に続く2年次教育の必要性が示唆された。今後も学年の傾向や特徴を捉えた教育方法の検討が必要である。
3. 「考え抜く力」が低い結果が共通していた。看護師養成所では、学生のレディネスが多様化している背景からも、考え抜く力を強化する必要性があると考えた。
4. 看護学実習やそれ以外の授業、課外活動など様々な機会に社会人基礎力の伸長が可能であることが示唆された。
5. 臨地実習が社会人基礎力を伸長する重要な機会となり得る。学生や病院側と共通認識を持ち、意識づけを図る必要性が示唆された。

VII. 研究の限界

本研究は文献のみの分析・考察であることから得られた結論の説得性に限界がある。また、対象文献数が少ないため結果を一般化することはできない。今後、さらなる調査研究が望まれる。

文献

- [1] 経済産業省 社会人基礎力に関する研究会
-「中間取りまとめ」-平成18年1月20日。

- https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/001_s01_00.pdf
(2021年9月9日参照)
- [2] 経済産業省ホームページ 社会人基礎力.
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>
(2021年9月9日参照)
- [3] 厚生労働省ホームページ「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書.
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/03/s0310-6.html>
(2022年1月29日参照)
- [4] 厚生労働省ホームページ 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 平成19年4月16日.
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
(2022年2月21日参照)
- [5] 箕浦とき子、高橋恵編：看護職としての社会人基礎力の育て方 専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素. 第2版, 日本看護協会出版会, 2018, pp.4.
- [6] 前掲書 [5] pp.16.
- [7] 内藤 誼人：社会的スキルの自己評価と他者評価の一致について. 立正大学心理学研究年報. 2013;4: 39-43.
- [8] 河合塾・リアセック PROGテストについて.
<https://www.riasec.co.jp/progtest/test/index.html>
(2021年9月9日参照)
- [9] 江川 隆子、小平 京子、奥津 文子、他：超高齢社会の医療を担う看護師・看護学生の「看護実践能力」に関する検討－. 関西看護医療大学紀要. 2018;10 (1) : 58-61.
- [10] Jimmie Gahagan, Mary Stuart Hunter: The Second-Year Experience: Turning Attention to the Academy's Middle Children. About Campus. 2006;11:17-22.
- [11] Jamie L. Ellis: Continuing the Support: Programs for Second-Year College Students. Colorado State University Journal of Student Affairs. 2010;XIX:51-56.
- [12] Webb, OJ: Deciphering the sophomore slump: changes to student perceptions during the undergraduate journey. University of Plymouth Research Outputs. 2019; 77:173-190.
- [13] Marion Tower, Eddie Blacklock, Bernadette Watson et al.: Using social media as a strategy to address 'sophomore slump' in second year nursing students: A qualitative study. Nurse Education Today. 2015; 35:1130-1134.
- [14] 石毛弓：2年次教育が果たすべき役割とは何か. 大手前大学CELL教育論集. 2010;2: 23-30.
- [15] 新井英靖、荒川眞知子、池西静江 他 (編著)：考える看護学生を育む授業づくり 意欲と主体性を引き出す指導方法. 第1版第6冊, メヂカルフレンド社, 東京, 2018, pp.17.
- [16] 厚生労働省 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書 平成23年2月28日.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000013l0q-att/2r98520000013l4m.pdf>
(2021年11月5日参照)
- [17] 前掲載 [1]
- [18] 全掲載 [1]